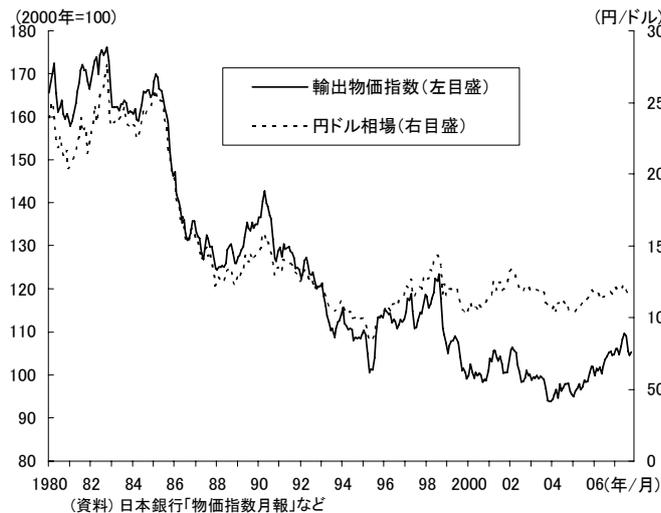


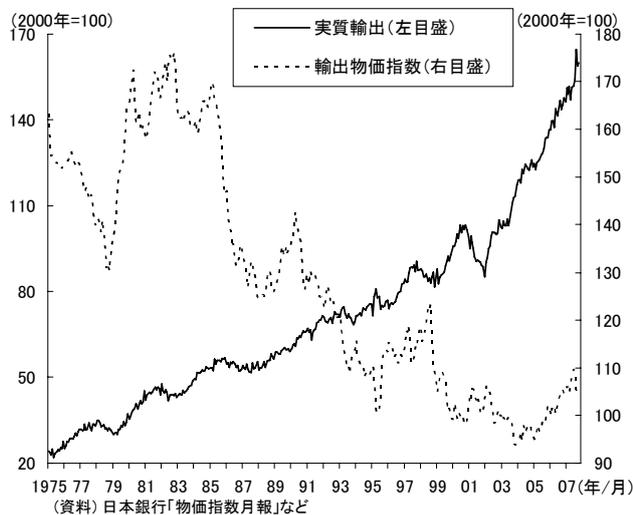
円高は景気悪化に作用するか ～円高悪玉論を疑う～

- (1) このところ円高が急速に進行。そうしたなか、株価が一段と低迷する一方、わが国経済の先行き不透明感が広がる展開。しかし円高は、かつてと同様、わが国経済にマイナスか。
- (2) まず円高は輸出価格の低下を通じて売上高の目減りに作用する筋合い。もっとも、そもそも近年、円ドル相場と輸出物価との連動性は大きく後退（図表1）。このところの輸出物価上昇は新興国の台頭に伴う需給の逼迫と素原材料を中心とした国際市況の上昇が一因。
- (3) さらに2007年上期について決済通貨別にみると、ドル建てでは、輸入金額が輸出金額を5.5兆円凌駕。円高は輸入金額を削減し、資源価格上昇の悪影響を減殺する経路を通じて、わが国経済に対してプラスに作用（図表2）。
- (4) 加えて、近年の動きをみると、わが国輸出は価格が上昇するなか、数量の増勢が一段と加速。根底には、製品の高付加価値化と輸出製品の価格帯上昇の好循環（図表3）。
- (5) 一方、物価上昇の影響を排除しドル以外の為替変動も加味した実質実効レートを見ると、すでに既往最低の円安水準（図表4）。これらを総じてみれば、円高が景気にマイナスとする見方は早計。むしろ、様々な下押し要因が相次ぐなか景気の下支えに貢献とみるべき。

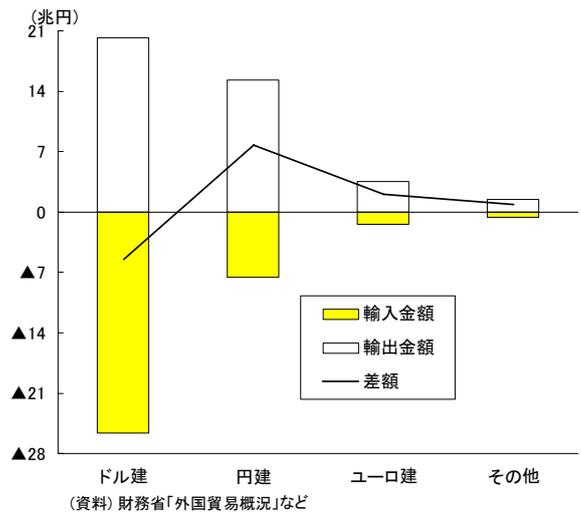
（図表1）輸出物価指数と円ドル相場の推移



（図表3）実質輸出と輸出物価指数の推移



（図表2）決済通貨別輸出入金額（2007年上期）



（図表4）円ドル相場と実質実効為替レートの推移

